

# 安齋隨筆

三

俗語ギツトスルト云

|   |   |   |   |     |
|---|---|---|---|-----|
|   |   |   |   | 和書門 |
|   |   | 八 | 九 | 類   |
|   | 一 | 一 | 八 |     |
|   | 六 | 三 | 四 |     |
| 冊 | 架 | 函 | 號 |     |

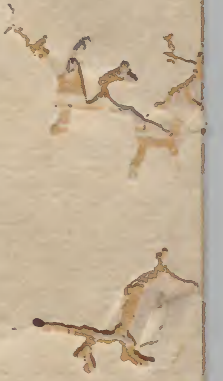
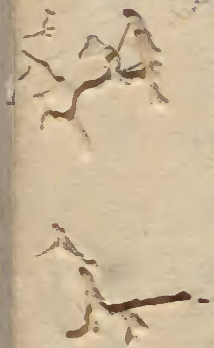
|   |   |   |   |  |
|---|---|---|---|--|
| 庫 | 文 | 閣 | 内 |  |
| 五 | 一 | 八 | 和 |  |
| 三 | 九 | 九 | 書 |  |
| 函 | 四 | 四 |   |  |
| 一 | 六 | 八 |   |  |
| 九 | 八 | 八 |   |  |
| 架 | 冊 | 號 | 類 |  |

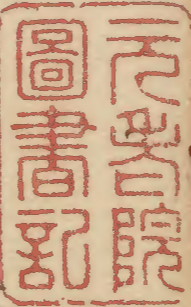
|      |          |
|------|----------|
| 内閣文庫 |          |
| 番號   | 和 8948   |
| 冊數   | 16 ( 3 ) |
| 函號   | 153 294  |





Faint, illegible text impressions are visible in the upper half of the left page, arranged in several columns. The text is very light and appears to be bleed-through or extremely faded.





俗諾ニキツトスルト云フハ屹ノ字也唐詩選丹青引

禮曹將軍霸ニ榻上庭前屹相白トアリ唐玄宗玉花驄

ト云フ名馬ヲ庭前ニ牽立テ身形ヲ嘗將軍ニ画カ

セテ榻上ニ置テ見給フニ榻上ノ画馬ト庭前ノ生馬

ト頭ヲ上ケテニラミ合テ見ユルト云々莫ナリ

展卷筆記云不著者シラマ弓ト云ハ檀ノ白木ニテ作り

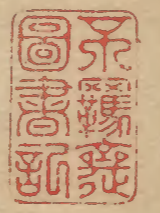
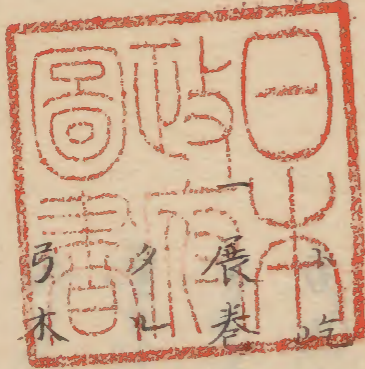
弓木也弓ニ作ルハキ正真ノ木ト云フ名ナリ今世土

佐ノ国ノ土民國主ヨリノ觸状ヲ川白ノ隣村へ送ル

ニ常ニハ川ヲ渡リ持行ク大雨洪水ニテワタラレヌ

時ニハ木ノ枝ヲ切テ弓ヲ作りテ失ニ状ヲ結付テ川

ヲ射越シテヤナリ甚處ノ土民ノ云フニハ外ノ木





あつそしく... 怨... 年... 花... 大政... 天... 世...

○貞丈按... 王道... 保元... 後... 事...



モアレ見スニアレト云詞也モアノ切音マナリ  
一居士展卷筆記居士人稱今ノ人土人ノ佛ニ歸スル  
ノ稱トノ之思フハ誤也韓非子ニ齊有居士田仲者ト  
云ヘリ又礼記ノ玉藻ニ居士綿帶ト云フ詔アリ是ラ  
ヲ始トスヘキ歟又梁書文苑傳世説ノ棲逸篇ニモ居  
士ノ稱アリ皆不仕シテ隱處スル者ヲ云ヘリ處士ト  
イフモ同ニ但北史ニ陸法和佛法ニ歸シテ官大尉ニ  
至シトモ自居士ト稱スト是等佛法ニ云フ所ノ居士  
歟

一紙花 延喜因昏寮式曰凡國忌齋會五位一人六位已  
下一尺史生一人白寺率諸司史生四人行夏冬月用紙  
花崇西寺二十宮餘月採時花供之寺使令採○按時花ニ對

ニテ紙花ト云ナレハ紙花ハ紙ノ造リ花ナルヘシ  
一頭巾 同式凡写年料仁王經十九部云々各給淨衣施  
四丈禪行彩袋調布四丈五尺衣袴並湯頭巾二條絲一  
兩

一水麻筥 同章ニ水麻筥二口杓二柄○麻筥ハ桶也桶  
ヲケト訓ハ水麻筥ヨリ出

一関及 同式云凡裝潢長切日黏紙七百張拵紙二人日  
百二十張鹿関及四百四十八張張別ニ長七寸二分  
廣七分注関及四百八十三張張別ニ長同上廣分横  
界五百八十八張装唇四百二十張裁端及著標○関及  
ハ書籍ノケイヒキノ表也

一禪 同縫殿寮式曰六月神今食御服帛ノ草衣二領ニ別

三丈七尺 袴三腰 丈別ニ中袴二腰 丈別三禪二腰 丈別ニ丈  
 一 黒葛菅 前リニ同章黒葛菅ニ合 廣一尺三寸 〇按是  
 寛菅也 又東鑑ニ葛菅尺記セリ  
 一 柳菅 前リニ同式六月晦日御贖服云々 柳菅六合 合大ニ  
 〇又同式正月法會衆僧法服云々 柳菅ニ合納履 〇  
 二 合四合十ト云フハフタモ身モアル菅也 殊ニ履  
 ヲ納ルトアルニテ菅十ル莫ヲ知ルヘシ 今世用ルモ  
 ノハ柳菅ノフタナリ 〇又下ニ記ス  
 一 望陀布 同式ノ新嘗會御服ニ云望陀布ニ條 〇按上  
 総國望陀都アリ 此所ヨリ貢スル布ヲ云ナリ 〇和  
 名抄ニ見  
 一 二日 纈帛一疋 一日ノ纈ハ長功日十四人中功日十七  
 疋半ヲ

短功日六人見干同式 今ハ目結ナリ  
 一 柳菅 同式年科雜物ノ章ニ柳菅四合 盛御服科ニ合  
 雜給科ニ合  
 一 猿ヲ馬屋ニ置事西晋ノ趙固將軍是變車スル所ノ良  
 馬死ス 趙固是ヲ惜テ賓客ニ接ラズ 郭璞ト云仙術ヲ  
 得タル者河東ノ亂ヲ避テ此ニ至ル 門ヲ守ル者シカ  
 くと 詔テ内ニ通セズ 郭璞カ曰吾能ク馬ヲ活スヘシ  
 卜守者驚テ入テ白ス 趙固詔出テ云ク 君ヨク吾馬ヲ  
 活サシヤ 郭璞曰 健夫ニ三十人ヲ得テ皆長竿ヲ持シ  
 ノ東ニ行 爰三十里ニシテ丘林廟社アラハ使テ竿ヲ  
 以テ打拍ハ當ニ一物ヲ得ヘシ 急ニ持テ歸ラハ馬活  
 セント去フ 趙固其言ノ如スルニ果テ一物ノ猴ニ似



タルヲ得テ持テ帰ル此物馬ノ死タルヲ見テ便テ身  
鼻ヲ嘘吸ス頂アツテ馬超テ奮迅嘶鳴スルコト常ノ  
如シ又先ノ物見ユス趙固大ニ称賞シテ厚ク資給ヲ  
加タリト云右搜神記ノ趣也

一 布施 僧ニ施ス物ヲ布施ト云フ麦ハ須達長者祇階

園ニ黄金ヲ布キナラヘテ其金ヲ以テ其園ヲ買ヒ取

テ建寺テ釈迦如来ニ奉リシト云フ故事アリ

一 日蝕 日蝕之事 天文七西川 北林次昏 教童曆談日日蝕ハ必朔日

ニアソ月蝕ハ必十五日又ハ十六日或十四日ニアル

時モアソ日蝕ハ日輪ノ正下月輪メクソ違スル時月

ノ鉢上ナル日ノ鉢ヲ蔽ヒ障リテ日光ヲ隔テ暫時日

光明ヲ失フナリ日蝕ハ日月正面ニ對シテ正クムカ

フノ時ハ其中間ノ大地ノ陰晴月ノ鉢ニ障リテ日光

ヲ遮ル故ニ月鉢暗黒トナリテ蝕セリ何レモ定數ア

リテ算考スト云々○貞丈云日輪ノ正下ニ月輪メク

リ逢トハ日ノ下ニ月カ重ナル也月ハ光ナキモノニ

テ日ノ光ヲウケテ光ル者也身光リナキ月カ日ノ下

ニメリリ合ユヘニ日ノ光リヲ隔ツル也○月蝕ハ日

月正面ニ對シテ白フトハ月ハ天ニアソ日ハ地ノ下

ニメリソリテ日ト月ト正面ニムカヒ合フヲ中ニ大地

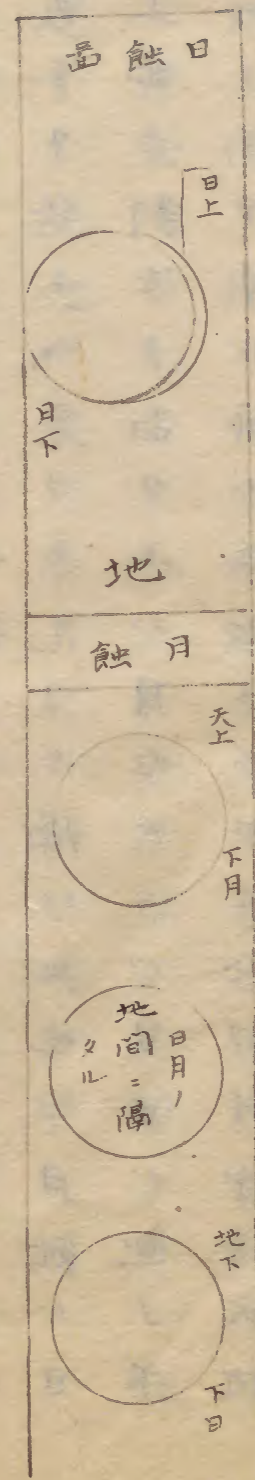
カアリテ日ノ光ヲヘタツル也月ハ日ノ光リヲウケ

テ光物ナルニ大地ニヘタテラレテ月カ日ノ光ヲウ

ケルナラヌ又ユヘ蝕スル也○日月ノ形圓キ玉ノ如

シ扁キ物ニアラズ日ハ火ノ精ナル故光アリ月ハ水

精ナルユヘ光十三日ノ光ヲウケテ光ル日月十分ニ  
 對スレハ十分ニ蝕ス少シカタヨリテ對スレハ少シ  
 蝕ス推テ知ルヘシ 此蓋貞丈作也然トモ後先ノ考  
 十シ



一 寧ノ字ノ国訓古ヨリ儒昏ニムシロトヨミ来レリ  
 貞丈按ムシロトヨム下儒書ニノミ用テ他ニ通セサ  
 ル詞也寧ノ字説文曰願詞也トアリ然ラハ子カワク  
 ハトヨミタケレ氏子カワクハトヨミテハ直ニ願ノ

字ニテ願ノ詞ト云フニハ合ハス願ノ詞ニヨムヘキ  
 ナラバカシトヨムヘシカシト云ハ願ノ詞也此ヨミ  
 ヤウ先儒イマク祭セサル所也大学曰与其有聚斂之  
 臣寧有盗臣 論語述而曰与其不孫也寧固又八佾曰  
 禮與其奢也寧儉卷与易也寧戚又曰与其媚於奧寧  
 媚於竈又子罕曰且予与具死於臣之午也無寧死於二  
 三子之午乎如此ヨムヘシ 無寧朱注ニ 在旁ノイマク  
 よもあすまへ人ハツカ死ニハタマフと云フ四ノ  
 又くもれう〜まうい〜カ死〜キハ月ノおん也死  
 人のおんけ又のい〜の〜ちりき〜の〜け  
 河もた〜人のた〜右ノつ〜死の地多  
 以外在参〜又無乃ノ二字ヲ

モムシ口トヨミ来シリ是モムシ口トヨムハ悪シ乃  
千何々トスルナシ上ヨムヘシ

一御書令ノ公式ノ詔云或曰明神御宇日本天皇詔旨義解

曰詔以大受ノ宣云々於藩國使之辞也中年月御書○同令右御書日者

留中務省為案此下有義解曰詔御宣ノ者依勅旨或取

署留為案為顯宣奉行故也但以御書為驗不可更印

下文去書可訖留為案者亦准此也○別寫一通即署送

大政官大納言覆奏書可訖留為案寫一通詔訖施行下

○御書ノ夏禁秘抄ニ見ヘタリ

一印寸法 公式令曰天子神璽謂踐祚之日内印方三

寸五位以上位記及下諸國公文則印外印方二寸半六

位以下位記及大政官文案則印諸國印謂省臺司等方

二寸二分上官公文及案移牒則印諸國印方二寸上京

公文及案調物則印不

○繩目ニ印スル事 同令曰凡公文皆印夏扶物數及

年月日並署縫處鈴傳符封數○縫處ハ紙ノ以キ目也

一職事官散官武官文官京官外官ノ公式令曰凡内外諸

司有執掌者為職事官無執掌者為散官五衛府及諸帶

仗者為武太宰府三閩國及内舍人不在武限自余並為

文○又曰凡在京諸司為京官自餘皆為外官

一朝政日喚姓名法ノ事 公式令曰凡授位任官之日喚

辞義解曰謂在卿所而授仕之辭三位以上先名後姓謂

令喚之類萬言四位以下謂五位先姓後名以外三位以

上直称姓謂直類也若右大臣以上称官名四位先名

後姓五位先姓後名謂換之類也 六位以下去姓称名  
謂直言之曰及以外並皆通称也 唯於太政官三位以上  
称大夫四位称姓五位先名後姓具於寮以上謂安官四  
位称大夫五位称姓六位以下称姓名目及中国以下五  
位称大夫謂一位以下

一赤烏帽子ノ事 其昔義教公御前源義松浦肥前守也  
出仕時好テ赤帽子ヲ着テ朝ス故ニ義教公自ラ其貌  
ヲ圖シテ賜之源義并戴之後南禅寺ニ寄進ス卜云多  
田五代記ニ見エ多田兵部源俊著又小笠原持長ノ  
射御拾遺集云流滴馬射装束ハ小キヲサニ笠ヲキ装  
束ニ作花十卜ヲ付テ射ル也アケ装束ハ装束セ又前  
ニ馬場ヲ通スアケ馬ノ変也烏帽子ヲ朱ニ又リテモ

著檜笠十卜ヲモ用也○俗ノ謗ニ亭主ノスキノ赤烏  
帽子卜云フモ中古赤且ホシヲ好ミシ者アリシヲ朝  
ル詞ナルハシ上古ニハナキ也

一宛夾之變 扶桑略記寛平四年壬子九月ノ文曰所取  
雜物大將軍縫物ノ甲冑貫草ノ袴銀作ノ太刀纏弓草  
ノ胡蓀宛夾保呂一具已上附脚カト云々是ハ新羅ノ  
賊船四十五艘来レルヲ攻七シテ彼船ニ有シ物ヲ京  
都へ進上シタル変ヲ云フナリ右ノ品ニノ物ノ中宛  
夾何物ト云フ知レヌ 貞丈按スルニ號字彙補夾ノ  
字ノ注曰又訖洽切倭入聲周礼射馬氏則以花夾取之  
注曰花夾鍼筭具也ト見ハタリ扶桑略記周礼ノ注ノ  
文ニ據テ花夾ト記シタルナルシニ花ノ字ニ并ニ作

ルニ仍テ後大並ヲ誤リ写シテ宛夾ト各タル十ルヘ  
シ宛夾本ハ宛夾ナルヘシ疑フヘカラス宛夾ハ的ノ  
高ク中リタル矢ヲ又クハサミ也  
一 小キ瓜ヲヒメウリト云小キ百合花ヲヒメユリト云  
スヘテ小キ物ノ名ニヒメヲ付テ名ツタル一異国ニ  
モ同シ續字彙補ニ女字ノ補音義ニ女桑ハ小桑ナリ  
又古注ニ女塙城上ノ小塙也トアリ此女ノ字吾国ノ  
詞ニヒメト云フニ同意也  
一 今世儒学ヲスル徒姓名ヲ著スルニ唐人ノマ子ヲシ  
テ復姓ヲ省テ單姓トスル者多シ復姓トハニ字或三  
姓ト云也藤原ヲ省テ藤某トシ物印ヲ省テ物某トシ  
清泉ヲ省テ清泉トスル類也是非也古吾国ニテモ菅

泉ヲ省テ菅泉相ト云大江ヲ省テ江納言ト云類アレ  
トモ是ハ私ノ称ニテ公ノ号ニアラス或説ニ菅原清  
原藤原ノ原字大江ノ大字物部ノ部ノ字小野ノ小ノ  
字ナトハ虚字ナルユヘ虚字ヲ除テ実字ヲ執テ單姓  
ニ昏リヘシト云是又誤也姓ニ虚字実字ヲハ論スハ  
カラサル也虚字実字ト云ハハ顯得ノ單姓昏ルシ  
シテハカトハズト云フモナキ也單姓ニ書サレハ  
唐人ノヤリニ聞ヘスト云フ人アリ何ユヘ唐人ノヤ  
リニ昏セタキテ歎心得カクシ其上唐人ニモ復姓ア  
リ百里端木石作新垣高堂東方赤草諸葛古野司馬十  
ト云ノ姓アリ唐人ナレハトテ單姓ニ限タル号ニ  
ハアラス又近世ニ藤原ヲ省テ藤某ト書テモイマタ

唐人ヲシクナシト思フニヤ藤ノ字ノ巾冠ヲ除キ去  
テ膝桌ト書人アリ是ハ又一改裁タル唐人ヅキナリ  
笑ヘシ日本橋ニ住ケル儒者カ笔ヲ品川ヘ移シテ唐  
ヘ一里迄ヨリシトテ悦ビケルト云フ物詔アリサモ  
アルヘシサソ唐人ノ衣服ヲ着タリ思ヒテサカイキ  
ソソテ麻上下ヲ著ルヲハ何ヨリモ苦ニキ変ニ思フ  
ナラニ憐ヘシ儒者ハトカク日本ノ風俗ヲ改テ唐風  
ニシタカルト通癖也然レ氏儒者ニ唐音ヲ知ラサル  
者多シ唐音ヲコソ能ク習ヒ熟スヘキ変ナレ唐音ニ  
達セサレハ唐ノ書ヲ読テモ意義ニ達セサル変アリ  
又詩ヲ作ルニモ唐音ヲ知ラスニテ作りタル詩ハ少  
クハレ又詩カ出来ル変アリ用ニモタ、又唐人ノ真

似ヲセシヨリハ唐人ノ物云ヒノマ子ヲ好テ唐音ヲ  
習ハ、大ニ学文ノ助ナルヘシ  
一 卒座 ハカ 序會トハ畧儀ノ序會也卒座トモ云ナリ江  
家次第等ニ見ヘタリ  
一 年山打聞云 為章昏 安東字平也丹波国栗田郡千  
山下尾口村口産セシ人也以故ノリ  
故ニ年山ト号ス水ナ黄門光國郷百シヲツボ子世絶  
物詔若榮ノ卷ニ里ノ人多ク余リテ臺盤所ニテハカ  
ナク扇風木下ハカリヲヒキツボ子テヒマモナク井  
タリノ按 母 為章 母 ツボ子ト云フ詞ノモトハ是ニテ心得  
ヘシ紫日記ニモ扇風ヒキツボ子ト有シヤウニ覺ユ  
花ノツボ子又カラカサナドヲヒラキツボムルト云  
フ詞ト同変ナルヘシ

一 權ノ北方 世継物語ニ東三條兼家公ニ本室ナリシ  
 テ家ノ女房太輔ト云フヲツカヒテ時メカシタマヒ  
 ケルヲ權ノ北ノ方ニテメテタシト昏タリ女ドテク  
 廿ガナキ詞トキコユレトイニシハ雅ニソ侍リシ  
 一 自棄ノ戒 自棄ノ戒ト成又ヘシ  
 多ク吹ク一傳ノ自暴自棄ノ戒ト成又ヘシ  
 一 市人称官名 本朝ニテモ末ノ世ニハ治工業ノ父  
 リヒマテモ官名ヲ称スルニナリヌモロコシモ同  
 変也陸客菽園記ニ曰史人称外郎者古有中郎外郎皆  
 臺省官故僭擬以尊之今人称郎中饅工称侍詔磨工称  
 博士師巫称大保茶酒称院使皆然中率右命不明之舊

習也國初有禁

一 ヒノハシメ 資益ノ三日記此記分テ愚按下ニアリ  
 二 明應十年正月一日云諸社之遙録ノ後三献者之改  
 有登次御コワ次ニ比目始海人藻及中御門宣方卿子  
 作曰公家御膳飯者強飯也執柄家等此此強飯全分畧  
 儀也但人々依好惡用之強飯時飯湯也而近代強飯時  
 ヲモユマイラセヨト召不叶理者也○按和名集編纂  
 和名比名或説比禾トアリテ具次ニ別ニ粥ヲ出シテ  
 非粥之羹ナリトアリテ具次ニ別ニ粥ヲ出シテ  
 和名之留加由薄藥也トアレハ編纂ハヒタスヲノ粥  
 ニアラス曆ニヒメハシメトアルハ年始ニ編纂ハシ  
 ムル変ナルヘシ貞徳梅枕草子ニツヒメノト云リ  
 一 眉スキ齒少口和名ニカ子鳥外 祭式部日記寛弘五

年十二月ニ云ツコモリノ夜ツイナハイト、ハテ夕  
レハハクロメツケナト、ハカ子キツク口ヒトモスト  
テウナトケ井夕ルニ云ミトリカヘハヤ作者未詳本  
合冊アリヲ中ニ云カシテアラハセ髪モカキ夕レナ  
トシテ見レハ厄ノホトフサクトカ、レ夕リ眉スキ  
カ子ツケナト如モサセ夕レハ云ミ建内記時席公永  
享三年十二月ニ云予カ女九歳有祝着中萬久呂養三  
葉子付初之眉毛又リ髪母曼ヲ又リ次ニ三歳云ミ按  
スルニトリカヘハヤハ源氏挾衣ナトヨリ後ニ作レ  
ルナ子ト見ユ宣輝殿躰也權中綴言女也ハ厄妹ヲトリ  
カヘテ作レリ  
一小思ノ額ニ大ノ字ヲ昏ク大府記為房卿康和五年八

月廿七日云東宮遷御高松第戌四刻御出宗通卿御額  
奉書大字先日女房奉仕為房卿ノ子息顯隆卿日記ニ  
ハ戌刻行啓依可奉書阿也都古人曼以予為御使被申  
説〇為章按スルニ大字ヲ昏曼ヲ何也都古人ヲカリ  
トイヒケニカシ  
一十二單 此名目フルキ物ニ見夕ルハ源平盛衰記卷  
四十三葉ノ裏ニ女院ハ御焼石御硯管トテ御袂ニ宿  
シ入レ御身ノ重クシテツ、キテ海ニ入ラセ給此間  
弥生ノ末ノ曼十レハ藤重子ノ十二單ノ御衣ヲ召シ  
云々  
一月代 王海兼実云安元二年七月八日建春門院崩御  
ノ記曰自竹簾中時忠卿出首其鬢不正月代大亦老大







留贈結文人。以上年山打聞上卷

一場名女。薩戒記日記親御。應永卅三年三月廿七日除日

處今度有府臨時被申之文揚名女申文也。行文云被常陸女

正六位上藤原朝臣國貞

望諸國揚名女

應永卅三年三月廿七日

廿九日記云揚名女。自院以來室中叙言被尋下云

揚名女先例仕國並諸文等可注進者此。更迷惑凡仕國

者山城上野上總常陸近江等之由見抄物此。更大内記

為清朝臣後日談曰上皇就揚名女被尋仰少納言良賢

入道常宗云。注進五箇國其時被散御不審云。此更

若以如源氏物語之說可定一國之由思召處今度申文

望諸國揚名女云。依之御不審出来云。或古人物

語云圓明寺園白見物加茂之祭之時山城女渡之申人

、梅之圓明寺殿被仰云揚名女被被仰了揚名女秘更

也。而無左右山城便渡之時被仰出忽覺悟為令隱揚名

女更後々每度被仰云。此時以来人々皆揚名女知山

城女更云。為章按スルニ加茂ノ祭揚名女ハ山城女

ニ限ルヘシ源氏物語ノハ何レノ國卜定メカタシ右

ノ諸國ノ間ナルヘシ作り物語ナレハ只アルニ留

守ヲイハシ為マテニ昏ル成ヘシ

一ミツカヒトツ。葵ノ巻ニソノヨサリ井ノコノモ子

ヒ云々河海抄ニ井ノコノ既ハ色ニナリ三日ノ夜ノ

既ハ一色ナレハ數々ニアラテト云ナリ。契沖師カ

去死セキサマニハアラテト去ニテ知ルヘシ數ニハ  
タビ數ノ多キ也色ニヲ云ニハアラズ井ノコ能多カ  
リシ其三分が一ハカリセヨトノタマヘルナルヘシ  
紫ノ上ノ夏ハ嫁聚ノ本式ニモアラテヌスミトリタ  
マヘル夏ナレハタ、祝ノシルシハカリニテ穗便ナ  
ラムカタメ也三ツカヒトツヲ今ノ世ニハ三ノ物ヒ  
トツトイヘリ常ノ詞ナレトモ本文ハアリ更記ニ云  
晋悼夫人食與人之城杞者蜂縣人或小人也不知紀年  
臣生之歲正月甲子朔四百四十五甲子矣其季於今三  
之一也更芝間諸朝師曠曰魯叔仲惠伯會都成子兼匡  
之歲也七十三年矣右同昏見  
一トノ井モノ赤深衛門カ彖集ニカタ、ガヘニ来タル

人ノトノ井モノヲ出シタレハツトメデイヒタル

リヤウノア、此系の如布をうりり少そや人ハとり少  
通一、名物をハ、床をハ、安座な少布をい、く、結水、者、と、

宇治拾遺ニ平負文カ本院待從リ局へ忍  
ヒタル所ニ云クツホ子ニ行タレハ人出来テ上ニ十  
レハ葉内申サニトテハシノ方ニイレテイ又見レハ  
物ノウシロニ火ホノカニトモシテトノ井モノトホ  
ホシキ衣フセゴニカケテタキ物シメタルニホヒナ  
ヘテエナラス云ニタ、夜著ノ夏也

一菊花 万葉集ニハ一首ニ見エス夫ヨリ後桓武天皇  
ノ御製ヲ類聚國史七十、五卷ニ載ラレテ云延曆十六  
年十月癸亥曲宴酒酣皇帝哥曰 己乃己 吾乃志具礼

乃阿采尔菊乃波素知利曾之沼陪岐阿多羅蕨乃香乎  
賜五位以上衣被 今按今七菊ノ花ハ九月中比ニシ  
クハ未ツカカタヨソ十月マテ盛ソナリ万葉集ニ淡路  
廢帝天平寶字年中マテノ歌ヲ載ラレタル三首ニ菊  
ノ歌見サルハ称徳光仁ノ御代或ハ桓武ノ比ナトモ  
口コシヨリ菊ヲ渡シタルニヤ古曰唇ニ 〇貞丈按右  
桓武天皇ノ御歌ニ菊花ヲキクノハナトヨミタマヘ  
リキクト云フハ菊ノ字ノ音也 国訓ニハアラス字音  
ニテヨフテ外國ヨリ渡リシ故ナルヘシ然ルニ菊ノ  
字ニカハラヨモキ又アキシベノハナトド訓ヲ付ケ  
タルハ後人ノシワザ也  
一カナツカヒ 契冲師カ云後成卿ノ哥ニ タノマス

ハシカマノカナノ色ヲミマアサソメテコソフカク  
ナルナレ万葉ニハ以ト為遠ト於コレヒサヘカヨ  
ハセルナシコ、シテ以為ト比ナト更ニカヨハサ  
ズ後世ハ古ニカハレリ今按蓬ト藍トカヨハシテヨ  
マレタルヲソシリタリケニモナルナリカヤウニ  
中比ノ先達不吟味ナリシユヘニ假名ツカヒニタレ  
テワケモナリナレリ四声ヲワキマヘヌ人ノ詩ヲ作  
レルガゴトシ此外中古ノ哥ニカヤウノ不吟味アマ  
タ見ヘタリ同唇ニ  
一將暴 田暴雙六ハフルクヨリ物ニモ見ヘタレトモ  
將暴ハイツ比ヨリト云フコトヲ知ラス明月記建仁  
四年十二月十日宇治御案記具傍置田暴双六將暴等

盤アリト後日ニ家兄為実ノ云台記大将棊ト云物見  
タリ其文ニ云康治元年九月十二日叅新院於御前與  
師仲朝臣指大将棊余負見同合ニ

一天皇謚号 親長卿日記ニ後花園院号定時中院大納

言秀通申詞ヲノセラレタリ文長十レハ前後ヲ畧ス〇

允謚法ノ更起於固道遠及日域者歎神武己来至文武

四十二代者是淡海公所製更己幽舍也其後儀式ハ依

平日之德行謚号或ハ以後院御所證成本此ニ修追号有

山陵之由緒有庵号之遺詔彼是非一者乎〇勸修寺前

中級言御教秀申詞コレモ前後ヲ畧ス如為長卿記者元

明天皇勅命以其回其郡可為謚号之由分明也以上年

アリ上ニ

一ヒメ始此本文上ニ見タ山打聞ニ資益王ノ日記

ニ次ニ御コワ次ニ比目始ト云フヲ引テ海人藻菰和

名抄ナトヲ以テヒメハシメ飯ヲ食スル始トス是ニ

テ疑ナキガ如シ然レモ貞天竊ニ疑アリカノ資益王

日記モ上古ノ昏ニアラス明應十年ノ記文也明應ノ

比モヒメ始詳ナラスシテヒメ飯ヲ食スル始ト云フ

説アリシ故ヒメ飯ノ更トシテ記ナレシニハアラサ

ル歟コハ飯ハ本式ニシテヒメ飯ハ異物也然ハ曆ニ

コハ始ト云フヲモアルヘキニコハ始ハ見ヘスシテ

ヒメ始ノミ記シ来レルヲ不審也コハ飯ハ本式ナル

改コハ始ヲスソ記スヘケレ畧儀ノヒメ飯ノ始ヲ曆

ニ記スハ心得ラレヌ一也サレハヒメ飯食スル始ノ

夏トハ思ワレズ右貞丈考

ヒメ始ノ夏俗ニ飛馬始ト昏テ馬乘始也ト云フ説アリ用ヘカラス曆ニ馬ノリソメトアリテ別ニヒメ始トアリ馬ノリソメトヒメハシメハ別ノ夏也又俗ニ夫婦交接ノ始ト云フ貞丈按ニ此説実ナラズ歟年ノ始ニサマクノ夏始アリ夫婦交接ハ子孫繁昌ノ大本ニシテ万事ノ中是ヨリ重キナリシ家ヲ継クノ基也サレハ年ノ始ニ必此始アルヘキナリ也俗人好色淫乱ノ心ヲ以テ見ルユヘオカシクタワレタルノ様ニ思ヘトモ夫婦ノ交リハ好色淫乱ノ義ニハアラズ夫婦ハ五倫ノ一ツニテ既ニ誓礼ト云フモ礼義ノ一ツ也年ノ始ニ婚始トテ祝義ヲ営ムル誓禮ノ祝ニ

准スヘシ人ニ隱スヘキナリモアラズ耻ヘキナリモアラズ然ルヲ好色淫乱ノ如ク思フ人ニヒメ始ハ夫婦交接ノ一ニテハアルマシト思フニヨリ別ノ一ナルヘシトスルユヘ詳ナラズ夏ニ也シナルヘシ

一用人ノ夏 東鑑卷三十三 是子息郎従有數在可為

御要人之故云々又世四ノ卷ニアリ今武家ニ用人ト云フ役アルハ要人ナルヘキ歟家老ニ引続テ所要ノ人ト云フナリナルハシハ主君ニ仕ルノ人貴賤ノ品コソアレ主用ナキ者ハナシサレハ用人ト云フ役ノミニ限ヘカラス要人ト昏ケハ其義叶フヘシ太平記卷三十三新田左兵衛伏羲與自害ノ篇ニ兵衛佐殿モ竹沢モ他ニコトナル思ヒヲナサレ侍輩共モ皆コレニ

過タル御要人アルヘカラスト悦ハヌ者ハナカリケ  
リト見タリ是所要人ト云フ心ニテ御要人ト云々  
ル也御用本太平記ニハ  
一節下大臣之事 江家次第十四大掌會御祿条ニアリ  
曰節下大臣就禰諸可列立又云節下大臣令擊鎮陣鉦  
以下一条禰之三ヶ重更抄云節下ノ大臣ト云フハ  
旗ノ名也世俗ニハ大カシラト名ツリ具旗ノ下ニ供  
奉スルニヨリテ節下ノ大臣トハ云フナリ○節旗騎  
馬者持之以緋緹四人張之件旗上三候ニシ如山字管見記  
ニ見ヘタリ○節下ノ大臣ノ名義ハ節下ニ供奉スル  
ヨリ称スルナリ高會ノ内矣ト云フカストシ件ノ供  
奉ノ安備ノ上卿ト知ルヘシ己ニ次亦ニ節下大臣ノ

条ニハ上卿トアリ猶考ヘシ○右大塚市郎右衛門橋  
嘉樹説○貞丈云三箇重更抄ノ中御襷行幸ノ篇ニ見  
ヘタリ

猿樂 源平盛衰記卷三澄憲而ヲ祈ル篇ニ云猿樂ト  
申ハオカシキ更ヲ云ツケテ人ヲワラハカシ侍ル  
ヅカシ

一藏法師 盛衰記卷四鹿谷酒宴ノ篇ニ云師光ハ左衛  
門尉成景ハ右衛門尉トシ申ケル信西平治ノ乱ニ討  
レシ時二人共ニ出家シテ左衛門入道ハ西光右衛門  
入道ハ西景トシ申ケル二人ナカラ御藏ノ預リニテ  
猶召仕ハレケリ

一白河院ノ詔 同昏卷四加賀國温河焼失ノ篇ニ云白



河院ハ加茂川ノ水双六ノサイ山法師是ソ朕カ心ニ  
シタカハヌモノト常ニ仰ノ有ケルトソ申傳ハタル  
一 貞永式目ノ起請文ニ日本國中六十餘州大小神祇殊  
ニ伊豆箱根而所権現三嶋大明神八幡大菩薩天満大  
自在天神トアリ是ハ相模国ニテ書シ故相模ノ神名  
又近隣ノ伊豆ノ神名ヲ誓ヒ掛シ也八幡鶴ヶ岡也天  
神ニ在柄ノ天神也他国ノ人起請文ニ伊豆箱根ヲハ  
昏ニ及マシキ衰也源平盛衰記卷世九重衡酒宴ノ篇  
ニ佐殿モヨリト顔色アシサマニ成テコレマテ仰ラル  
マシケレハ汝ヲヤルハ中将ヲシケレナリサメシタ  
ノ也中将イカテカ汝ニ情ヲカケサランイカテカア  
シキニサテハ誓言仕レト仰ス女ナミダヲナカシツ

一 若中将ニ召レナカラ御前ニテイツハリコト申侍  
テハ在柄是柄伊豆箱根ヨリ始奉リ日ノ下ニ住玉フ  
モロクノ神ノニクマシラカウフラントソ申ケル云  
、此千寿前カ誓言ニ相模国鎌倉ノ人ナル工へ其誓  
ヒ在柄是柄伊豆箱根ヲ言タル也  
一 下帯同昏卷十一經俊布引ノ滝ニ入糸經俊ハ糾ノ  
下帯カキ備前作ノ二尺八寸ノ大刀随分秘藏シタリ  
ケルヲワキニサシテ髪ヲ乱シテツト入云々下帯ハ  
今ノフントシノ衰也又古ハ手廻トモ云フ義貞記ニ  
アリ○又装束ノ下小袖ノ上ニスル帯ヲ下帯ト云フ  
衰モアリ  
一 和与 貞永式目ニ和与ト云フ衰アリ源平盛衰記卷

三十七則 綱盛俊ヲ折糸ニ維廣ヲ待付テ盛俊ヲ討タ  
ラハ二人シテ討タリト人ニイハレシモ本意ナシ和  
与シテ命ハイキタリトテモノカルマシキ盛俊也  
云々和与ハ相考ニ和談スルヲ云フナリ  
一 紀之女 盛衰記卷十九 佐々木馬ヲ取り下白ノ糸ニ  
如法アカツキノ麦ナレハ旅人モイマタ見ヘサリケ  
ルニ草鞆ヲキタル馬追テ男一人見ヘ来ル高細ワト  
ノハイツクノ人ソイツクヘワタルソト問ヘハ是ハ  
クリタノ者ニテ候カカマフ郡コワキノ八日市へ行  
モノ也ト答フ名ヲバタレトイフツト問ヘハ男アヤ  
シケニ思ヒテサウナクアカサストカクコシラヘテ  
問ケレハ喜之女トフ名無ツタル云々古モ紀之女ナ

ト、名ノリシ下賤ノ者ナリハ官名也官名ヲ犯ス  
ルモ久シキ麦也  
一 短尺 内裏式ニアアリ太平記卷世高倉殿京都退去ノ糸  
ニ將軍少モサハキタマハス褒貶ノ短冊トリ出シ心  
シツカニ詠吟シ折ラツムイテソオハシケル云々將  
軍ハ尊氏ナリ或説ニ短冊ハ東山殿ヨリ始ルトハ非  
也古代ヨリアリ 雜々拾遺云宇治左大臣頼長公ノ  
日記ニ鳥羽法皇ヨリ官女ノ方ヘ短冊ヲ力キ下サレ  
、由ヲ記シ玉ヘリ  
一 三遍ト云々 迹言便蒙抄云三遍ト云フ麦説々多シ  
朗詠集ニ先三遍兮吹具花云々其抄ニ三遍ハ酒ノ名  
也シカ名付ル麦ハ酒盃ニ入テタクルト三夕ビシテ

定マリタルトキノム也然ラサル時ハ茶トナラス仍  
酒ヲ三邊ト云フ邊ハシツマルノ義也トイヘリ又云  
惠法師ノ説ニ晴ノ座ニテ酒ヲノムニハ必三邊ト云  
テ方ソキヲ三ツアリ一ニハ人ノ手ヨリ酒器ヲクル  
ニサウナク請トラサル其間邊シニツニハ請取テ酒  
ヲ受テモ頓テノマス人ノ目ヲカクルトキノム間邊  
シニツニハ飲テ後人ノ飲ニモ左右ナク請ワサル間  
邊シ故ニ酒ヲ三邊ト云フトイヘリ又一説ニハ人ニ  
酒ヲフルマフニ定テ三邊ノ義式アリ先邊ヲシキ次  
ニ詔ヲマシヘ次ニ看ヲス、ム是ヲ三邊ト云フトモ  
去リ〇貞丈按古今著聞集ニ競馬ノ夏ヲ昏タル条ニ  
三邊ノ後ト云フ夏アリ是文章ノツ、キ酒ヲノミ

タル後ト云フトハ聞エズ此三邊ハ三度地道ヲ乘  
ルト云フノヤウニ聞エ東鑑ニハ三庭トアリ是モ  
競馬ノ条ニ見タリ庭ハ邊ノ誤歟邊ハ庭ノ誤歟詳ナ  
ラズ三庭ト云フトキハ馬場ヲ三ヘシ乗リタルト  
聞エ詳ナラス酒ノ異名ノ三邊トハ別ノ夏也  
一俗ニサモシイト云フ詞アリ補ノ字ナルヘシ編ヲサ  
ミスルトヨムナリ編ノ字玉篇ニ甲魯ノ切急也狹也  
衣小也トアリ字彙ニ編小ク陋陋又編急詩魏風雜曼  
編心トアリ是等ノ字注ヲ合セ考ルニ編ト云フハ子  
イサクセハクセハシキト云フ意ノ字也然レハサモ  
シイト云フハ心セバク子イサシトテ賤シムル詞ナ  
リサモシイハサミシイ也モト三通意ナルエヘサモ

シイヲサヒシイ去フナリ人ヲサニスルト去フモ人  
ノ器量ヲセハクナイサシトテイヤシムルナリ禰ノ  
字ノサヒシイハ寂莫ノサヒシイトハ別ナリサヒシ  
イト差別ヲ知ヘシ

一 埒ノ字 玉篇盧拙切封道曰埒トアリ音レツ也吳音  
ハラツ也ラツ轉シテラナ也封道トハ道路ノ傍ニ玉  
ナヲツクナ也ソレヲ埒ト云唐韻去埒也トアリ埒モ  
土ナノナ也又字彙ニ庫垣也トアリ庫ハ玉篇ニ音婢  
短也トアリ庫垣トハシシカキ垣也此注吾國ノ埒ニ  
合ヒタリラナハ垣セイ短クヒキシ卦道ト埒也トノ  
注ハ吾國ノ埒ニ合ス○ラナノ事又下ニシルス  
一 三浦ノ源 予盛表記卷三十三 三賴朝征夷將軍宣ノ篇

ニ 義澄ハ赤威ノ鎧ニ甲ニハキス右ノヒサヲツキ左  
ノヒサヲ立テツ、テ箱入奉ル所ノ宣旨袋ヲウケ取  
奉ラニト左右ノ手ナ、クル時康定カ子テ三浦ノト  
ハ兼テ侍レ共ソモク御使ハ誰人ニテオハシマスル  
ソトタツ子候シカ三浦ノトハ名乗ラスシテ三浦荒  
次郎義澄ト名乗ルマ、ニ宣旨ヲウケトリ奉ル去々  
○貞丈按國司官名ニ相摸ノ三浦ノト、去フナハ  
アリ三浦ノ富樫ノト郷名ノトハナキ莫也三浦義  
澄ハ三浦ヲ領スルユヘ私ニ三浦ノト名ノリシナル  
ヘシサレハ私ノ号ナルユヘ刺使ニ向テハ三浦ノト  
名ノラスシテ三浦荒次郎ト名ノリシナルヘシ富樫  
ノト同前ナルヘシカヤウノ莫ヨリ官名モ乱レ今ハ

了ラス名トナリ何ハ何魚十ト、云丁二十リシ也

一 拙字 江談抄卷五曰又問云拙字誠本朝作字歟此何

被命云杜字本朝山田福吉所作也柳字又見日本記云

一 疊上下事 江談抄卷三曰又被談曰知疊上下ヲ云可

敷事也面逆裏ニ折返テ開付タルヲ上下知也折只

付ヲ下ニ可敷也云々

一 可然人者着袴収袴不着夏 江談抄卷二曰戶部卿曰

故右大將御童雅之時着袴之曰夕從上東門院被奉御

裝束一襲兼日依被不被副進収袴時人或林令忘却給

之由或重申可被申請之由殿下無返答不審制限之至

矣不着用給其後院聞食此旨仰云其人者着袴之時不

着収袴也近代人々不知矣内歟平時近習上達部殿上

人非參儀等浴、焉仍不傳聞哉云耻辱多乎資業章信

不知此旨猶以不及古賢也

一 禁裏御展風之夏 江談抄卷二曰諸御展風等有其負

夏又云諸展風等有其數所謂漢昏抄迷坤元錄變天岳

賢聖山水等御展風等之類是也隨時立之季夏見裝束

日記文歟○貞丈云右ノ外ニ大宋ノ御展風地獄變之

御展風等又年中行夏ノ御展風等古昏ニ見夕リ

一 警蹕夏 江談抄卷一曰或人之警蹕問云天子用之見

選私行之時何用此哉答曰公卿皆隱公達隱也秘事云

々又云警蹕者文選云出警入蹕是天子用之也

司談諸人之義也卿相公達私行之時談諸人者卿相者

皆隱公達隱也云々此事都督之説○貞丈云吾朝ノ警

蹕ハ述衛司天子出行之時御先ヲハラフニアフクト  
 高声ニ喚ハル莫ヲ去也是ヲサキヲオフトモサキゴ  
 へトモ云也天子ノ外ハセ又莫ナレト公卿公達ハ私  
 ニテ外ニテサキヲオハスル也私莫ナルニハ朝廷  
 ニハ隱シテ行フナリ後世武家先供ノホウクト云テ  
 先ヲハラフモカノ余風也  
 一 吉備大臣真備ハ天平宝字ノ比ノ人ナリ  
 一 顯基 江談抄卷三曰又被命云入道中納言顯基常被  
 談云無咎テ被流罪而欲見配死之月云々○ツレクニ  
 一 李部王トハ重明親王ヲ稱スル也李部ハ吏部也民部  
 卿ノ唐名也

一 馬埒 正字通云埒音劣早垣也世説曰晋王洽有馬埒  
 謂干外作短垣繞之也○山堂肆考云唐馳埒劇雜場皆  
 唐時長安ノ故埒也○蒙求武子金埒晉王洽子武子買地  
 為馬埒

一 元服 漢昏昭帝紀注如淳曰元服謂初冠加上服也師  
 古曰如氏以為衣服之服此說非也元首也冠者首也所  
 着故曰元服矣

一 茶ニ極ソ、リ別義半一ナト云フ、イソソ、リトハ  
 ソロユルノ義也上リ出ス義也極トハ極上トノ義也  
 別義トハ子細アリ珠光ハ松花ノ青者ニ茶ヲツメラ  
 レシカ其壺アマリ持過テ茶灸ル故ニ隱蜜ニ字治ヘ  
 去遣シ煎ヲ少シサセシナリ是ヨリ珠光ノ別義ニ被



上意アリシ人、是ヲ聞テ鑑直垂ト思ヘリ依之難渡  
戦記等ニモ皆鑑直垂ヲ著スト記セリ実ハ然ラス其  
朝甚寒天ナリシニ批昂能ノ装束ノ手近ニ如何ニテ  
カ有シニ依テ有ルニ任セテ老人ナレハ寒氣ヲ凌カ  
ント合戦前ニ甲ノ上ニ著シタリ下卷

一河原者ト古ヨヒシハ穢多ノ夏也壙囊抄云河原ノ者  
エツタト云フハ何ノ字ヲエツタト云付也常ニハ穢  
多ト昏リケカレヲホキ故ト云フヲ古キ物ニハ餅取  
ト昏リ真ニハエトリト云ハシ餅トハ肉ニテ鷹等ノ  
餅也ツレヲヒサリ者ナレハエトリト云タトハ同音  
也エトヲエタト云フハ畧セル詞也ト云ハリ生物ヲ  
害シテ賣ル者ヲハ唐ニハ屠者ト名ツクホフル者ト

云也天竺ニ旃陀羅ト云フモ同餅取鮓ノ職キ者ナリ  
屠殺ヲモエタトヨム也一茶冬良公ノ令聞昏ニ衛門  
ヲ決スル者ヲ云フナリ今ノ世ニハカハラノ者ナリ  
ヲ云フ也人ヲ殺ス莫ク云フ也河原者ニ付ル故ナリ  
一葦手昏 壙囊抄云アシテカキタル下繪ト昏ルハ何  
ナル繪ヲ或人ノ云アシテトハ文字ニテ繪ヲカクヲ

云又或抄物ニ云和泉式部無双ノ好色也ケルニ亥ノ  
子ノ夜御歌アリケルニ能ト心ヲ合セラレケレハ瘡  
聞ト云名ヲ式部取當テ筆モツヒユカミテ物ノカ  
ルハ是ヤ難波ノ惡筆ナルラムトヨメリ惡筆ト  
八字ニテ繪ヲナスト注セル物アリ又葦手トモ昏也  
或ハ木ノ節或ハ葦ノハツレナトノユガメルマニ  
字ノ似合タルヲ以テ昏ヲ葦ナトノ枯卧タルニタト



へて云也

一 魁本對相四言雜字ト云物ニハカリノ繪図ノソハニ  
秤ノ字ヲ出ス三空字類ニハ秤ヲ俗字ト注シテ稱ヲ  
本ニ出ス盪囊抄見

一 和光同塵 老子曰和其光同其塵

一 道服 盪囊抄云道服トハ雨降ヌ時來馬スル上ニ折  
着テ帶セセヌ物也灰木コリノ立テ衣裳垢ヲ防ク心  
也殊更内ニテ着スヘキ物ニアラサル也○貞丈云道  
服ト云裝束ハ公家ニ用ラル者ニテ僧衣ニ似タル  
物也乘馬トトノ時着ルハ胴服ナリタケ短クテ胴ハ  
カリ覆フ服ナルユヘ胴服ト云也道服トハ別也

一 盒膠 蠻名ナヤニ中ニ立ニモ亦製アリ詳ニ雜彙簿ニ

見エタリ天正年中阿蘭陀人飲奴速磨ト云者ヨリ傳  
ル所也○細ニ塗ルニハ松脂三百目荏油五合黃蠟九  
十日○木ニ塗ニハ松脂三百目荏油三合白蠟百五十  
目鍊ニ塗ニハ松脂三百目荏油二合白蠟五十目○胡  
麻油ヲ用ユルハ誤リ也別ニ口傳アリ 右廣大和本  
草別録ニ見ヘタリ

一 透骨草 本草大和 和名ヤマア井濟世全各曰洗癰瘡方中  
用透骨草注透骨草出雄列雲南縣葉似食蓼面背青  
秋後結花碧青穗形如雄手膝根蟠屈蔓延數百莖皆相  
連 吾國大葦會新葦會トトノ神彙ニ用ユ神学家秘  
スル所也益ヤマア井ハ上品深色ニハアラス神代實  
朴ノ彙ヲ知シムルナリ救荒本草及本草綱目有名木

用ニモ出タリ、皆一物也。○貞丈云、大葺會新葺會等ノ神事ノ時、白布ニ山アサニテ草木等ノ形ヲ磨ク出シテ、服ス是ヲ小忌衣ト云フ也。糊ヲ布ニ包テ木形ノ文ノ上ヲ折テ其上ニ白布ヲキセテ綿ヲ以テ布ノ上ヨリ押セハ、末形ノ文ノ所ハ高ク外ハ低クナル如此シテ置テ山アサヲ磨リ、凡メテ布ニ包テ文ノ上ヲ撫レハ文青ク出ルト云フ也。猶磨リヤウノ傳アルヘシ尋ヌハシ文ハモヘ木色也。

一伽羅 廣大和本草曰、沉水香、梵名迦羅、ト称スルモノナリ。勢列ノ異人來テ余ニ問、凡今ノ世ニ伽羅ヲ好ムモノ六国ト云フハ、皆国ノ名トス。是ナルヤ否ヤ、余益曰、今伽羅ト称スルハ、国ニカ、ワラス、益伽羅ト云ハ

沉水香ノ梵語也。佐曾羅ト云フハ、地ノ名也。字或ハ釐、<sup>フ</sup>釐<sup>ラ</sup>ニ作ル。又須門多羅ト云フハ、<sup>ノ</sup>釐<sup>ラ</sup>門<sup>ラ</sup>陀<sup>ラ</sup>ノ誤ナリ。一作釐埋、<sup>マ</sup>移<sup>ラ</sup>羅<sup>ラ</sup>字、或作依<sup>サ</sup>德<sup>マ</sup>達<sup>タ</sup>刺<sup>リ</sup>共ニ同シ。羅回ト云フハ、羅刺<sup>ラ</sup>国ノ略也。貞那盤ハ水盤也。貞那迦ハ大秦国ノ唐<sup>ナ</sup>罽<sup>ス</sup>山ノ陽ニアリ。然トモ、回ニハアラス六国ト云フ。一モ又久シク諤ル死ニシテアラタムルニ及バタシ。回日記ニ云、沉香ハ樹類、椿<sup>チ</sup>鵝<sup>カ</sup>鳩<sup>ト</sup>班<sup>ハ</sup>ヲナスモノ、尤奇品ナリトス。又隱虞雜志及ヒ楊巖<sup>ヤ</sup>控<sup>コ</sup>ニ埋火香ヲ聞ユトアリ。是今ノ迦羅キ、ノ用ル法ノ如シ。迦羅ノ夏ハ物理小談及ヒ道生八牋行厨集、五雜俎、法薊香譜、夏物、珠梵香七葉、三才因會、花鏡、延壽書等ニ多見タリ。考ヘ見ハシ、今コ、ニ識トコロハ、其文略ノミ。

一 矢ノ羽ヲユシラフル夏下ニ榎木ニテモ何ニテモ堅  
キ木ノ平ケル物ヲ置テ其上ニ羽ノ表ヲ上ニ十ニテ  
置テ槌ニテ羽ノ裏ノ方ヨリ羽クキヲ折ヒシクヘシ  
如此スレハ羽ノ裏ノ方羽クキノ真中ノ通リミソノ  
通リニ羽表ノ方ノ羽クキニワレメ出来ル也如此ニ  
テサテ小刀ヲ以テ羽ノ元カタヨリ割ルヘシ右ノ如  
ク羽ヲワリタラハ羽クキノ中ノシニテ去ヘシ其心  
ヲ去リヤウハ廣サ一寸才長サ羽タケホトノ木ヲ二  
本平ニ四角ニ削リ一方ヲ緒ニテモ藤ニテモ巻イテ  
其西木ノ合メノ間ハ羽ヲハサミ羽クキノ所ハカリ  
木ノ面ニ出シ置テ今一方ノ木ノ端ヲモ堅ク括リテ  
小刀ニテ羽クキノ中ノシニテ去ルヘシ心ヲ去タ



上ヲ板ニハリツケタル木賊ニテスリテヤキカ子ヲ  
アツレハ羽サキ直ニナリテタハミナクナル也ヤキ  
カ子火ツヨケレハ羽焦テ用ニタス右ノ如クシテ  
篋ニハキ付ヘシハキテ後羽ヲカルニハ及ノ長サ五  
六寸計ノハサミニテ一ハサミニ狹ミ切ル也  
一 廿カ木ノ夏 廣大和本中々上流花和名サカキ天帝  
道式云樹高丈餘葉似古度字夏開花如梅花除夜移植  
於門戸以避一年瘟疫之氣スナハテ今ノサカキナリ  
昔田及流木田等神道家ニヤクシツカト去夏アリ  
恐クハ是ニヨル也  
一 大臣ヲオトバトヨムヲ貞文按殿ノ字ノ擬訓也夜御  
殿ヲヨルノオトバト云ナリ大臣タル人ヲ殿ト云也



一 手紙ト云竟 負丈按手簡ハシユカントヨムシユカ  
ニヲテカントヨミテ又轉シテテカミト云モ終ニ手  
紙ト云タル也

一 明衛徃来一名雲州徃来ト云フ○藤原敦光ハ明衛ノ  
二男ナリ

一 坑飯坑ハ坑ノ誤古昏左經記卷一十一元年廿一日七  
印候内新中納言被出殿上坑飯調左大將被上達部殿上

人多被叅會各乘醉巡換立節所○又卷三九元四年十  
九日丙寅天晴左京大夫被儲殿上坑飯舞姬等叅上如

例○東鑑ニ每正月ノ坑飯見夕リフルマイノ夏也  
一 双紙鈔各様 壺囊抄云双紙ノ銘ヲ中ニ昏了リ端ニ

昏了リ如何勅撰等ノ歌草子ハ皆端ニ昏大和物詔

勢物詔等總テ物詔ハ心中ニ昏也仍光源氏昏中ニ昏  
也ト是有衆家具外ハ無沙汰歎又於聖教天台宗ニ山  
門ハ多分中ニ昏寺門ハ必齋ニ書ト云々

一 唐ノ香合ノ夏 右同昏去唐香合等ニ予ツコウナツ  
キニ云字ハ如何剔紅剔金ト昏リ剔ハ刮也ト叙セリ

刮ヲハ又削ニ作リ摩ニ作レリケツリミカク心ナリ  
加之堆紅堆朱堆烏堆漆犀皮玳瑁瑤雲朱鷄揚雜漆

金糸華紅花綠華九連糸十ト云フアノ是皆其品ノ  
名也楊茂柳成等ハ作者ノ名也靈芝ニ一花ニ花十ニ

ト云フモ手ノ名也擬靈芝ニ非サル物ヲ振レ共尔云  
也一花三花モ以テ同シ各步ニ於テ各拳スルカ故ニ

以テ名トスト云ヘリ

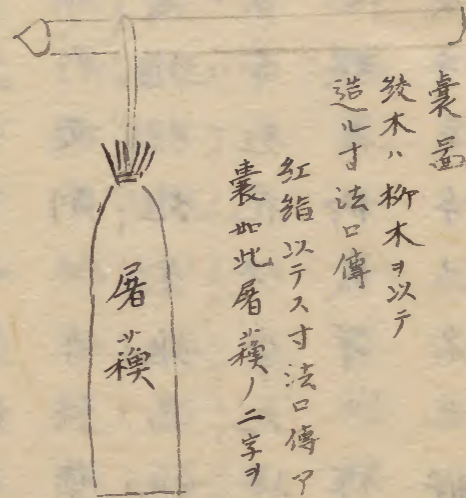
一曲藥頭今大路家

屠蘇

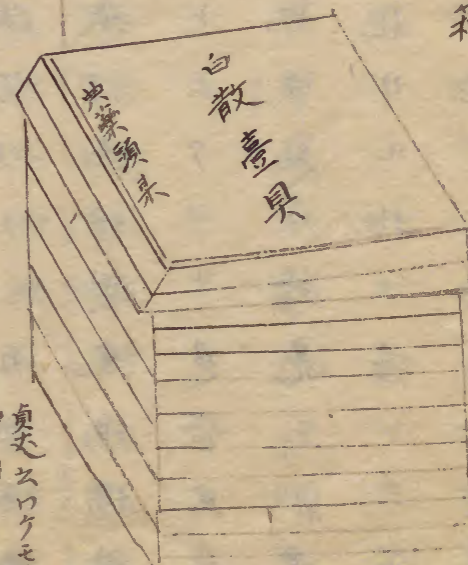
囊

焚木ハ柳木ヲ以テ  
造ル寸法口傳

紅指以テ寸法口傳アリ  
囊如此屠蘇ノ二字ヲ記ス



屠蘇箱



右檜ノワケ箱玉フキ筋檜ウチヘキタル

ツクルナリ

ウチキセテ  
寸法口傳ハ  
ウチ也

貞丈云此ワケモノナキ筭ヲ  
スヘテ昔ノ詞ニハ折ト云

貞丈云ワケモノニ木ヲ  
細ク削テツイテ付タル  
昔ノ詞ニハ是ヲカウラ  
ト云也此筭ノニ限ラス

今世典藥頭ヨリ除夕ニ屠蘇  
包之口傳<sup>袋ニ入</sup> 疫瘴散<sup>柳ノ木構ル</sup> 膏藥<sup>口傳</sup> 以上四品  
ヒ一對<sup>陰ヒ</sup> 柳ヲ以テ造之口傳<sup>右之品</sup> 皆箱ニ入ル<sup>是</sup>  
屠蘇箱ノ上ヲ紙條ヲ以テ括ル也箱ノ上ニ白散<sup>是</sup>

異ト記シ下ノ備ニ典藥頭某ト昏テ献上スル也

一 女官ノ中ニヒスマシト云者アリ極洗ト昏リ又累

シテヒストモ云是ハ糞器ヲ洗ヒ清ムル役ヲツトム

ル女也大便ヲヒリ入ル物ヲハコト云フナリ此ハコ

ヲ洗フ也ヒスマシカハコヲ持テ行ヲ平仲ト云人カ

ウハヒトリシ麦小世続ニ見ハタリ古代ハ廁ノ下ニ

瓶又ハ樽ナトヲ掘入テガク<sup>ハ</sup>十ク箱ニ大便ヲヒ

リ入テ度ニヒスマシニアラハセタル也

一 書状ヲ紙ニ包ミ糊ニテ付テ封スルヲ糊封ノ状ト云

フ古代無之麦也或ハ昏札ノ昏ニ是ハ慶長文祿ノ比

ヨリ始レリ此時乱世也故ニ糊封ヲ用石田治部少輔

專用之包様ハ医師ノ藥包ヲ学フ也トイヘリサモア

ルヘシ

一 函 昼 集 成 卜 去 昏 一 万 卷 ア リ 清 朝 ノ 康 熙 帝 ノ 自 撰 也  
 此 昏 南 京 ノ 高 船 ニ 載 テ 元 文 元 辰 年 長 崎 ニ 渡 リ シ ヲ  
 奉 行 細 音 因 幡 守 江 戸 へ 伺 テ 仰 ニ 依 テ カ ノ 昏 百 六  
 十 卷 ニ 十 函 上 タ リ シ カ 其 本 ハ イ マ タ 全 備 セ サ ル ヲ  
 印 板 ニ テ 函 有 テ 解 説 ナ キ 所 多 ア リ シ カ ハ 御 不 審 ア  
 リ テ 船 主 ニ 尋 サ セ ラ レ シ カ ハ イ マ タ 成 就 セ サ ル ヲ  
 板 ニ シ タ ル ヲ シ 云 ニ 依 テ 成 就 シ タ ル 時 渡 ス へ シ ト  
 テ カ ノ 本 ヲ ハ 返 シ タ モ フ 後 宝 曆 十 四 年 成 就 全 備 ノ  
 本 ヲ 持 渡 レ 一 万 卷 ア リ 是 ヲ 官 庫 ニ 納 ラ ル  
 ○ 或 説 ニ 清 朝 ノ 姓 ハ 清 ト 云 源 義 経 ノ 裔 也 清 和 ノ 清  
 ノ 字 ヲ 取 テ 國 号 ト ス ル 由 晝 書 集 成 ノ 唐 熙 帝 ノ 自 序

ニ 見 へ タ リ ト 云 是 大 偽 也 予 因 ア リ テ カ ノ 序 ノ 寫  
 タ ル ヲ 見 ル ニ 其 昏 曾 テ 無 之

一 我 國 中 古 以 來 ノ 文 章 ニ 以 ノ 字 令 ノ 字 ノ 用 違 ア リ 悉  
 以 是 以 弥 以 是 以 誠 以 猶 以 先 以 ナ ト 云 フ 以 ノ 字 無  
 用 之 以 也 漢 文 ニ ハ カ ヤ ウ ノ 既 ニ 以 ノ 字 ヲ ハ ツ カ ハ  
 ヌ 竟 也 又 令 ノ 字 ハ 人 ニ 云 ヒ ツ ケ 人 ヲ ツ カ ヒ 人 ニ 物  
 竟 ヲ サ セ ル 竟 ニ 用 ル 字 也 シ カ ル ニ 令 披 見 令 悉 入 令  
 見 物 令 他 行 令 帰 宅 ナ ト 昏 テ 我 カ 披 見 シ タ ル 一 我  
 カ 悉 入 シ タ ル 一 我 見 物 シ タ ル 竟 我 他 行 シ タ ル 一 我  
 帰 宅 シ タ ル 一 我 非 也 人 ニ 其 竟 ヲ サ セ ル ニ ハ 令  
 ノ 字 ヲ 用 ヲ ム ル 也 サ レ ハ セ シ ム ル ト ヲ ム 也 セ シ ム ル  
 ト ハ 人 ニ サ セ ル ト 云 竟 也 漢 文 ニ ハ 我 竟 ニ 令 ノ 字 ヲ

用ル<sup>レ</sup>莫ハナキ也又致ト字ヲ用ルモ用違也イタスト  
ハ便ヲ至ラセタル也忠節ヲ致スナト、去フハ心ヲ  
忠節ノ道ニ至ラセタルナリ皆推テ考ヘシ御状致披  
見候致迷惑候ナト、去フ致ノ字義ニ叶ハス是等ノ  
文字ツカヒ漢文トハ大ニ違ヒテ誤ナレトモ常ノ文  
通ニハ誤ノマ、ニ用ヒテ世俗通用スルヲヨシトス  
世俗ニ違タルハ惡シ其本義ヲハ知リテハキ也  
スヘテ万莫此心得有<sup>レ</sup>シ

一 中古以来我國ノ俗文ニ人ノ字ヲ用ヘキ処ニ仁ノ字  
ヲ用ユ狂人ト云フヲ狂仁ト昏キ人<sup>ニ</sup>鉢ト云フニ仁鉢  
ト昏莫アリ仁者人也ト云フ莫孟子ヤラニ見タレ  
氏ソレハ別ノ一也人モ仁モ同字ト云フニアラス

一 庭訓往來ナトニ不違毛拳ト云或<sup>レ</sup>不違毫拳ト云フ莫  
アリ毛モ毫モ葉ノ莫ヲ云也葉ニテ昏キツクスニ  
アラスト云フ莫也毛拳毫拳トモニ漢文ニハナキ詞  
也漢文ハ枚拳ト云フ也

一 サカイキハ<sup>前ニ記ス</sup>逆氣也サカヤキノ轉訛サ  
カヤキ也古代ノ人ハサカイキナシタマク逆上ノ氣  
ツヨクタヘカタキ人ハサカイキスルナリ古代ノ  
人常ニエホシヲカフルエ逆上ツヨキ人ハソリシ  
也又合戦アル時曹ヲカフソ逆上ツヨキ人ハタマク  
ソルトアリ天下萬民月代ソルハ近世ノ莫也秀吉ノ  
比ヨリノ莫<sup>如</sup>古画ノ結城合戦ノ繪結城七郎カ曹ヲ  
又キ鎧又キテ切腹スル鉢ヲ繪キタルニサカイキノ

鉢ヲ画タリヒタヒノ前ニ  
毛ヲノコシテソリタル鉢



如此鉢ナリ古代  
ノサカイキ也

ナリ今世ノ中ゾリノ如シ

一打身ニテ痛ムニハ牛糞ヲ日ニ乾シテ布ニ包ミ熱湯

ニ浸シテ具包タル牛糞ニテ痛死ヲ蒸スヘシ甚奇妙

也乾タル牛糞ノ香甚香ハシキ者也糞臭クナシト或

人ノ談也天竺ニテハ牛糞ヲ焚物ニシテ佛ニ供スル

ヨシ法苑珠林ニ見ヘタリ

一本府ノ隨身 職原環翠抄云番長本府隨身任之他人

ハイタク不任迹衛ハ隨身隨身ノ上臈ヲ番長ト云フ

恭氏下毛野氏等今ニ隨身タル也装束褐衣冠又ハ将

衣花着タリナト時ニヨソテ身出立サマクナリ〇私

考云番長己上府生将曹ヲ本府ノ隨身ト云迹衛舍人  
是ヲ隨身ト云〇又云本府ノ隨身ハ騎馬迹衛舍人ノ  
隨身ハ歩ナリ私考ハ國分氏ノ私考也

一職原抄 國分氏ノ私考ニ云凡此書ニハ叙位除目行

ハレニ為ナレハ諸官考ニ主典以上ヲ載タルナリ主

典以下ハ不預除目故不載此各諸司ノ下司具ニ令式

ニ有之此各ノ為専用更ハ叙位除目心ハヘヲ含メリ

故ニ死ニ叙位除目ノ事ヲ載ス

一姓朝臣名朝臣ノ更 職原環翠抄 清三位宣賢卿曰三

位以上ノ恭議ハ召シ名ノ時参リ議ル藤原朝臣トハ

カリ呼フ也氏ノ下戸ヲ付テ呼フ大納言中納言ニ同

更也又畧シテ召ラヌニ各付ル時ニ位三位ノ参議ハ大



納言中納言ト同様ニ臬ノ宰相ト書類也位署ノ時ニ  
ハ大臣以下末ノ諸官マテ不殘官位ヲ悉ク書載テ其  
末ニ氏戸ノ下ニ名乗テ去姓ノ朝臣具ノ朝臣トト  
去更ハ十キ更也○薩成記云應永廿三年正月十二日  
伊勢大神宮造宮使宣下之中正四位下行神祇權大副  
大中臣宣有朝臣ト昏也是四位ノ人ヲ朝臣ト名字ノ  
下ニ作ル也位署昏假ニ昏也ト國分氏ノ私考ニ見  
ヘタリ○壺井氏去姓朝臣名朝臣ト云フ了ハ公更ノ  
時大臣タル人參議ヲ召ス時ノ召名ノ法ニ此差別ヲ  
リ參議ノ召名ニ限リタル更也然ルヲ位署去ノ法也  
ト思フハ誤リ也  
一庭訓徃來尺素徃來十トノ徃來ノ字出死ハ史記卷十ノ

七李斯去趙高聞其文書相徃來  
一度量 續日本紀卷一文武天皇大室二年三月乙亥始  
領度量于天下諸國○量字印本作置誤也  
一乳母 續日本紀卷一文武天皇三年春正月壬午京藏  
言<sup>ス</sup>林房新羅女<sup>シラキ</sup>牟久賣<sup>ハク</sup>一產二男二女賜絶五足綿五足  
布十端稻五百束乳母一人  
一時服 續日本紀卷十二聖武天皇天平八年冬十月戊  
申施唐僧道璿波羅門僧菩提等ニ時服○祿令云凡親  
五年十三已上皆給時服料春絶二足糸二鈞布四端秋  
十口秋絶二足綿二化布六端鍔四地○十三代實錄卷四  
元慶七年二月廿五日壬戌  
賜<sup>ル</sup>渤海客使冬ノ時服  
一留守 續日本紀卷五元明天皇和洞三年二月辛酉始

遷都千平城以左大臣正二位石上朝臣詹為留守

靈壽杖續日本紀卷一文武靈壽杖注云顏師古注曰

八北天團三四寸自然有合杖天皇四年春正月癸亥

有詔賜左大臣多治比人真人嶋靈壽杖及與億萬年也

○卷九元正天皇神龜二年十一月己丑是日大納言正

三位多治比真人池守賜靈壽杖英絕綿本尊細口靈

人指陳藏番曰生刺南山谷園長及紫時珍曰陸氏詩說

曰指陳藏番曰生刺南山谷園長及紫時珍曰陸氏詩說

一宮中持扇策杖續日本紀卷廿四廢帝天平宝字六年

八月丙寅御史大夫文室真人淨三以年老力衰優詔特

聽宮中持扇策杖○此文ヲ見レハ上古ハ宮中ニ扇ヲ

持テ割禁了リシユハ海三ニハ別勅了リテ宮中扇ヲ

持ツテヲニルサレシ也後代ニハ扇ヲ朝服ノ具トシ

テ檜扇蝙蝠十ト宮中ニ持ツ事ニシテ武家ニテ貴

人ノ前扇持ツテヲ憚ルハ上古ノ礼ニ叶ハシ扇類人録

ワノアリテ

一襖統日本紀卷三十六光仁天皇日記曰年三月癸巳

宝龜十一年七月癸未征東使請甲一千領仰尾張參河

等五國令運軍旣甲申征東使請襖四千領仰東海東山

諸國造送之○貞丈按此時逆虜ヲ討ニカ為ニ征東使

陸奥國ニ發行スルニ依テ甲一千領ヲ請フ而後又襖

四千領ヲ請フ軍中ニ於テ襖ハ何ノ用ソヤ後世ノ鑑

直垂ノ如ク著スル為ナルベシ

一 君子國 續日本紀卷三文武天皇慶雲元年秋七月甲申朔正四位下栗田朝臣真人自唐至初唐時有人來問曰何處使人答曰日本國使我使反問曰此是何列國著曰是大國楚州鹽城縣人界也更問先是大唐今稱大國國号緣何改稱答曰永淳二年天皇太帝崩皇太后登位稱号聖神皇帝國号大周問答略了唐人謂我使曰巫聞海東有大倭國謂之君子國人民豐樂礼義敦行今者使人儀容大淨豈不信乎詔畢而去ト。永淳ハ唐高宗ノ年号皇太后ハ武烈天皇后也

一 襖 貞丈按襖ハ衣腋令延喜式等ヲ考ルニ衛府ノ官人ノ著スル関腋ノ袍也裁縫具衿ヲクヒカニニミテ狩衣ニ似タリサレハ狩衣ノ本名ハ狩襖ト云フ也鷹

狩ニ着ルヘキ襖ト云フ也襖ニハ拵ナシ狩襖ニハ袖拵アリ鷹ヲツカフニハ袖口ヲ拵リシメテ手ヲ使フニ便ヨカラシカナルヘシ素襖ハ其衿タリクヒニシテ裁縫襖トハ異ナレ共襖ノ名ヲ得タリ彼ハ綾ニテ造ルヲ是ハ布ニテ作ル故質素ノ義ヲ以テ素トハ云フナルヘシ福衣ハ狩衣ノ如ニテワキヲコヒフサキタルハ十リ拾母抄ニ見ユ

一 綿襖 是ハ右ノ宝龜十一年ノ文ノ襖トハ異ナリ 續日本紀卷廿四廢帝天平宝字六年正月丁未造東海西海等道節度使料綿襖曹二万二百五十具造於太宰府。貞丈按是ハ同昏同年二月乙卯ノ紀ニ綿甲曹トアルト同物也又續日本後紀養和二年二月丁巳ノ紀ニ綿甲トアルト同シ中ニ綿ヲ大タル甲曹ナルヘシ

綿ハ桑ニテ刀鋒矢鏃ヲ防リヘシ

二 近世ノ人ノ著セル昏、台徳公嚴有公常憲公ト各ス  
ルアリ何故ニ院ノ字ヲ捨テ公ノ字ヲ用ルヤイフカ  
シ院号ハ勅命ニテ何院ト号シ捨テ下トシテ何ノ  
院号ヲ削リ去ルヤ其罪少カラヌ或ハ儒者ノ昏ニ徳  
廟嚴廟憲廟トト、昏タルアリ是又目前也下トシテ  
何ノ上ニ此号ヲ被ラシムルヤ

一 草履類之考

物類称呼諸國ノ方言曰江户ニテコン

ゴウ又ノリ物サウリ以テオモタルトモニ  
菴内西国ニテコンゴウト云ノ名ナリサウリ  
ニテカワサウリ竹ノ皮ニ作リタル物ヲ九及ニテウラヤシト  
云フ東国ニテカヅサウリト云〇江户ニテ十カヌキ

サウリヲ京ニテスベサウリト云江户ニテウラフシ

ヌ板ニテトズワラジラ関西ニテアトツケサウリト云〇江户

フ九及ニテムシヤウラギ又ムシヤサウリト云小児

トリモノ今按ニ履ニシ靴ヲ和名タテハメトイフモノ也地下

ニテ用ルハ制異也トイハトモコンガウトヨグ昔比

叡山ニ安然僧正貪窮ニシテ昏ヲ来ルカナシ依テ金

剛也法番ヲキニ持タマヒテ草履ヲ制シヨリコニゴウ

サウリト世ニ云ヒ習シタルトナリ以上物類称呼

〇貞丈按コンゴウハウラ草履也蒲ニテ作りタルヲ

蒲コンゴウトモ井ノゲトモ云又緒太トモウラナシ

トモ云フ又按常ノ草履ハ二枚カサ子ナルヲ一枚ニ

スルユヘウラナシト云ニ枚裏ハ本ニアラス  
 コンズワラテ今世ハ小児ノミハク物ノヤウニ聞エ  
 レ凡小児ニカキラズ本ハ大人ノハクモノ也古代ハ  
 武者モハキタル故武者ワラテトモ云フ源平盛衰記  
 ニガンスハキテト云フ其見ヘタリ又義経記ニモ其  
 慶ハ大光達ニテ有ケレハ袖短ナル浄衣ニカテノ  
 ハキテハキテゴンスハキテト云フ有リコンスノ  
 制今ハ知ラヌ人多シ小児ノハキモノニノミ具制ノ  
 コレリ固ノ如シ



一 障泥又敵泥トモ云フ和名抄ニ見タリ泥ヲ障ルトモ  
 泥ヲ敵フトモ云フニ據テ考レハ此物元ハ面雪ノ日  
 泥ヲ馬足ニ蹴立テ衣服ヲ汚スヲ障ルカ爲ノ具也然  
 ルヲ面雪ラアラサレ凡是ヲ常ニ用テ飾トスルニ  
 ナレリ晴天ノ日ニハ無用ノ具也サレハ武家ニハ軍  
 陣又騎射ニハ必障泥ヲサハサル也時ニ川渡ニハ障  
 泥ニ水シトムユヘ忌之也大將行軍道路ノ間ハ行粧  
 ヲ刷ヒ壯觀ノ爲ニ虎豹ナトノ障泥ヲ用ルナレシ  
 戰場ニ臨テ障泥ヲサスナキ也画師此其ヲ知ラ  
 ス戰場ノ騎士ノ像ニ障泥ヲ画リハ誤也又按障泥ヲ  
 泥障ト昏ハ誤ナリ  
 一 冠ニ故中子ノ夏前ニ記ス厚額薄額半額透額ノ品了  
 中古冠ノ翁ニアリ

リ透額ハ今モ用ラル冠ノ額ニ半月ノ形ヲ彫リ透シ  
 テ其元ヲ羅ニテハリフサキテ漆ニテヌリタルナリ  
 若年十六歳ノ春適用之也其外ハ今詳ナラズト云へ  
 リ貞丈按古画ヲ見ルニ冠ノ額ヲ高ク更タルアリ左  
 ノ如シ



如此也号厚  
額ナルヘシ



上高ニ據テ思フニ  
クシ高シタルハ  
半ヒタヒナルヘシ



禁秘抄云角ノ上程有元以羅引卷也  
 薄額ナリ然而暑天更不叶只半額也  
 半額トハ  
 此ヒタヒノ依キハリスヒタイナル  
 へシ是今世用ラル冠ノ形ナリ人テ  
 世ノハ皆ウリスヒタナリ人シ



薄額也然而暑天不叶トハリスヒハ額ト冠トノ間近キ故暑天ニハ忌シ仍テ半額ヲ用半  
 ヒタイハ冠ト額ノ間少遠キ也  
 スキヒタイハ如此ヒタイノ上ヲ半月形ノ  
 ホリスカシテ羅ヲハリタルヲ云也

○古冠ノ更貞丈カ

推量説也スヘテ古昏ニ見サル推量ノ説ハ無ナレバ  
 始テ是ヲ記ス也

一和歌ト云更 貞丈曰古今和歌集ナト、云和ノ字ハ  
 無用也和漢ト相對スル更ナレハ若シ前ニ詩ヲ昏々  
 ル昏ナラハ詩ハカラウタル故其次ニ我因ノ哥ヲ  
 昏列子ハ和哥ト云へシソレタニモ日本人ノ詞ニハ  
 和哥トハ云へカラス因哥トコソ昏へケレト云ヲ聞  
 テ或人ノ云和哥ノ和ノ字ハ和漢ノ和ニハアラス上  
 古ハ大和國ニ都アリシ故都ノ哥ト云フ也諸國ノ田  
 舎ノ哥ヲヒナフリト云フ其ヒナフリニ對シテ都ノ  
 哥ヲ大和ノ都ノ哥ト云意ニテ和歌ト云也貞丈又自  
 都ノ朝廷ノ歌ナラハ田舎歌ニ對シテ都歌ト云フニ

及ハズタ、歌トハカリユテマキル、  
一ハナキ也世  
ノ諸国ニ都ヲ建ラレシカトモ其国ノ都ノ名ヲ歌ノ  
字ノ上ニ冠ラセシ莫ハナキ也和歌ノ和ハ和漢ノ  
和也漢ニ相對スル一モナキニ獨リ和ト云ハ有マシ  
キ莫也此莫和哥ノニニカキラ又莫也異朝ニ相對ス  
ル一モナキ事ニ本朝吾朝ナト、称スルモ無用ノ詞  
也

